

サツマイモ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に不完全ではあるが転換する型である。窒素の吸収パターンは山型を示し、リン酸については低～中領域に適応性をもつ。また、窒素、リン酸に比べカリの要求量が多い。

本作目は、吸肥力が強く、窒素施用量も少ないので、地下水汚染への影響は少ない。さらにマルチ栽培が一般化しており浸透水量は極めて少ない。本作目は土壌浸食防止効果も大きく、農地保全の面からも輪作体系に組み込んでいきたい。ただし、窒素過多になると、つるぼけ現象が起きやすいので、十分に留意する必要がある。

〔病害虫・雑草防除〕

無病の種イモを利用する。害虫の早期発見、適期防除を行い、化学農薬使用を低減する。クロルピクリン燻蒸はマルチ畝内処理を行い、農薬量の削減を図る。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては施用量をとくに注意する。</p>	<p>堆肥 1～2t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>全量基肥とし、局所施肥(条施肥など)を基本とする。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で施肥基準以下</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～30%</p>
化学農薬 低減技術	<p>機械除草を行う。</p> <p>微生物農薬を利用する。 (対象：ネコブセンチュウ、コガネムシ類、つる割病) BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：ハスモンヨトウ) 対抗植物(クロタラリア、ギニアグラス等)を利用する。 (対象：ネコブセンチュウなど) 抵抗性品種を利用する。 (対象：ネコブセンチュウ) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウ) マルチ栽培を行う。 (対象：雑草)</p>	<p>慣行使用回数の 20%減</p>
その他の 留意事項	<p>カリについては、必要に応じ追肥を行う。</p> <p>前作の養分の残存量、施用した堆肥の化学肥料代替率などを十分に考慮して施肥量を決める。</p> <p>水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意した施肥法をとる必要がある。</p> <p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。</p>	